TP-1 Tone Purifier

ユーザーマニュアル ┆ Version 1.0.0

TP-1 Tone Purifier をご利用いただき、誠にありがとうございます。
TP-1 は、ミックスの前段階として素材の下処理をするためのクリーンナップ／EQ
ツールです。ノイズリダクション、レゾナンスピーク抑制、4 バンド EQ、スペクトラムアナライザーを 1 つのウィンドウに統合しており、ギターやボーカル、ドラム、台詞素材など、あらゆるソースの「耳障りな成分」を最短手順で取り除けます。

目次

1. 動作環境とインストール
2. ライセンス認証
3. 画面の見方
4. 主要機能の使い方
5. サポートとライセンス

1. 動作環境とインストール

項目	内容
対応 OS	Windows 11 以降 / macOS 13 (Ventura) 以降
対応フォーマット	VST3 (Windows / macOS) / Audio Unit (macOS のみ) / 64-bit

インストール手順

・ ダウンロードしたインストーラーファイル（.exe）をダブルクリックして起動します。
・ ライセンス文章（英語／日本語）に同意して、画面の指示に従って進めてください。
・ インストール後、DAW を再起動しプラグインのリスキャンを行うとリストに表示されます。

2. ライセンス認証

フル機能を使用するには、シリアルキーによる認証が必要です。未認証のままではノイズリダクションとレゾナンス抑制の効果量が50%に制限されます。

シリアルキーによる認証手順

・ プラグインを起動すると、起動直後にシリアルキー入力ダイアログが自動で表示されます。
・ 購入時に提供されたシリアルキー（例: TP1ABCD12345678）を入力します。
・ Unlock ボタンをクリック。インターネット経由でサーバーと照合し、認証成功後にヘッダーの DEMO 表示が消えます。
・ ノブのロックオーバーレイも即座に解除され、100% までフルレンジで動作します。

認証が失敗した場合の対処:
・「Invalid Serial」→ シリアル入力のスペル、ハイフンの有無、大文字/小文字を再確認してください。
・「Server Connection Failed」→ インターネット接続を確認。ファイアウォールで aideaudio.com への HTTPS 通信を許可してください。
・「Activation limit reached」→
登録済みデバイス数が上限に達しています。ユーザーダッシュボードで不要なデバイスを削除してください。
・すべて試して解決しない場合は support@aideaudio.com にシリアルキーを添えてご連絡ください。

3. 画面の見方

TP-1 のウィンドウは上からアナライザー、EQ、下部コントロールパネルの 3 エリアで構成されています。

エリア	位置	内容
アナライザー	中央の広い領域	入力スペクトラム（シアン）/ 出力スペクトラム（オレンジ）のリアルタイム表示、EQ カーブと 4 つのハンドル、周波数・dB 目盛り
EQ ハンドル	アナライザー上に 4 つ	ドラッグで EQ バンドの周波数・ゲインを同時調整
LEARN / DELTA	下部パネル左側	ノイズプロファイル学習ボタン / 除去成分のみをモニターするボタン
REDUCTION パネル	下部パネル右側	NOISE ノブ、RESONANCE ノブ、それぞれの ON/OFF トグル

4. 主要機能の使い方

4.1 NOISE リダクション

LEARN で学習したノイズフロアを基準に、実音を保ちながらバックグラウンドノイズを自然に減らします。

- NOISE ノブ（0〜100%）: 除去量。弱めから始めて「ノイズが聞こえなくなる最小値」を探すのがコツ。
- ON/OFF トグル: ノブ下の NOISE ボタンをクリックで切替。

4.2 LEARN ボタン（ノイズプロファイル学習）

- LEARN ボタンを 1 回クリックすると学習が開始されます。
- できるかぎりノイズだけが鳴っている区間を多く含んだ箇所を再生してください。
- 学習完了後、LEARN ボタンは水色にフェードし、以降の NOISE 処理で常にこのプロファイルが使用されます。
- 学習結果は DAW プロジェクトに保存されます。プロジェクト再オープン時も再学習は不要です。

LEARN 中に実音が入り込んでも大丈夫？: TP-1 は統計的指標を用いて、動的な成分（実音）と定常ノイズを自動で区別します。少し実音が混ざっても過剰除去は起こりません。ただし、無音区間で LEARN させるのが最も精度が高いです。

4.3 DELTA モード（除去成分のモニター）

- DELTA ボタンをクリックすると、除去されている成分のみを聴けるモードに切り替わります。
- このモードで「実音が消えすぎていないか」「必要な成分まで削っていないか」を確認するのに使います。
- 目安: DELTA モードで「無音っぽいサー音」だけが聞こえれば OK。実音のアタックや倍音が聞こえる場合は NOISE を下げてください。
- 通常モードへの切り替えは、もう一度 DELTA ボタンをクリック。

4.4 RESONANCE（スペクトラルスムージング）

素材に含まれる「不要な共鳴ピーク」を周波数スムージングで自動的に均すモードです。ハウリング気味のライブ音源、チープなマイクの癖、ギターの耳障りな倍音などに効きます。

- RESONANCE ノブ（0〜100%）: スムージング強度。
- 特徴: 細いピーク（Q の高い共鳴）を優先的に平坦化。広いピーク（Q の低い楽音）は保護されます。
- ON/OFF トグル: ノブ下の RESONANCE ラベルで切替。

4.5 4 バンド EQ

ノイズ除去後の音色補正用に、4 バンドのパラメトリック EQ を搭載しています。アナライザー上の 4 つのハンドルをドラッグ、またはハンドルをクリックして開く詳細パネル内で調整できます。

バンド	タイプ	周波数	ゲイン	Q
Band 1	HPF / Peak（切替可）	20 Hz 〜 20 kHz	−18 〜 +18 dB	0.1 〜 10
Band 2	Peak（固定）	20 Hz 〜 20 kHz	−18 〜 +18 dB	0.1 〜 10
Band 3	Peak（固定）	20 Hz 〜 20 kHz	−18 〜 +18 dB	0.1 〜 10
Band 4	LPF / Peak（切替可）	20 Hz 〜 20 kHz	−18 〜 +18 dB	0.1 〜 10

- ハンドルドラッグ: 横移動で周波数、縦移動でゲインを同時操作。
- マウスホイール: ハンドル上で回すと Q 値を調整。
- ダブルクリック: バンドの ON/OFF 切替。
- 電源アイコン: 各バンド個別に ON/OFF。
- Band 1 / Band 4 タイプ切替: ハンドル右クリックまたは詳細パネルで HPF（LPF）と Peak を切替可能。

4.6 スペクトラムアナライザー

- シアン（青緑）ライン: 入力信号のスペクトラム（処理前）。
- オレンジライン: 出力信号のスペクトラム（NR + EQ + RESONANCE 処理後）。
- 2 つを重ねて見ることで、どの帯域がどれだけ変化したかが一目で分かります。
- 表示は 20 Hz 〜 20 kHz の対数スケール。縦軸は dB（0 dB 基準線が中央、±18 dB 範囲）。

5. サポートとライセンス

本プラグインの再配布や共有は禁止されています。
ライセンスの管理や、プラグインの不具合・サポートについては AIDE AUDIO のユーザーダッシュボード、あるいはサポートページ（https://aideaudio.com/support）をご利用ください。